

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700682		
法人名	医療法人社団柏木内科医院		
事業所名	グループホームあおば		
所在地	北海道中川郡幕別町札内青葉町311-1		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町村受理日	平成27年8月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は事業者が医師ということもあり利用者の健康管理はもちろん終末期の看取りも可能な数少ない施設である。又、医院が同一敷地内にあるため状態の変化にすぐに対応できる。終の棲家として、ゆったりとした気分で過ごして頂く為に、季節を感じていただけるように行事、花壇作り、施設内の模様替えを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0174700682-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0174700682-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年6月29日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあおばは、平成14年に幕別町青葉地区の住宅地が造成される前より開業している内科医院の長期入院患者に、より家庭に近い生活環境を提供したいとの運営者の思いで開設された。医師が運営者のため、定期的な回診と、隣接するグループホームや医院の看護師の支援を受けたいきめ細やかな健康管理は家族だけではなく、適切なケアを行っているという職員の安心にもつながっている。職員は利用者の家に帰りたい寂しさを理解し、理念ともなっている真心あるケアを行っている。入居後も利用者と家族の絆を大切に、利用者や家族同士の交流を定期的に行っており、日常的な交流とともに家族との強い信頼関係を構築している。法人では現在、3つのグループホームを運営しており、職員の安心して働ける環境が利用者支援にもつながるため、職員のモチベーションを向上させる取り組みと安心して働ける環境の整備にも配慮している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、来訪者にも見て頂けるようにしている。勉強会、職員会議等で話し合い意識向上と実践に繋げている。	事業所理念を作成し、玄関の見やすい位置に掲示することで日常的に職員間で共有し、質の高いサービスの実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけて近隣の方々と挨拶を交わしたり、ホームの行事等は皆様にお声掛けさせて頂いています。地域のボランティア会員の皆さんとの交流も盛んに行なっています。	事業所開設後、住宅地が造成された地区で、商業施設や子どもの施設がある。町ではボランティア制度が創設され、交流の促進が期待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者が医師であり、利用者や地域の方々の健康管理等、地域に貢献し実習生の受け入れを行い認知症についても豊富な経験と知識を持ち地域医療にも貢献している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し地域での活動や事業者からの報告や参加メンバーから質問や意見、要望を受け活発的に意見交換しサービスに反映できるよう職員間でも話し合っている	運営推進会議は2カ月おきに実施し、隣接する事業所と合同の開催も年2回行っている。事業所の状況や外部評価結果などを通じ、幅広い意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町職員も出席して頂き、日頃の事業所の実績やサービスの取り組み方を報告し意見交換をすることで、協力関係を築けるよう取り組んでいます。	利用者が安心して生活できるよう、行政と打合せし、活用できる制度を利用者に伝えている。町がすすめる地域高齢者支援の活動にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会等を通じ、全職員が身体拘束について学び理解をしており、利用者が安心と尊厳を持って生活できるよう支援している。	職員研修を定期的に行っており、利用者の安全と、転倒などのリスク管理について職員が話し合い、適切なケアが行なえるようにしている。また、事業所の玄関の施錠は行わず自由な生活ができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にも積極的に参加し、知り得た情報を職員会議や勉強会で対策マニュアルを備え日々の支援に向かう姿勢作りを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し制度について知識を深めるよう努力し、支援が必要な状況時には制度について説明や必要なアドバイスを行い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な時間を設け内容について丁寧に説明し、事業者のケアに対する考え方や取り組み、要望など退去を含め、説明し同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の生の声や意見を傾聴し情報を共有するように心掛け、ご家族には何でも話して頂ける雰囲気作りに努め、要望や意見は職員間全体で話し合い希望に添うよう反映させている	利用者については、生活を支える日常から思いや希望を聞き取り、家族については、来訪時に意見、要望を取り込むように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会、職員会議、個別面談で日頃からコミュニケーションを図るように心がけている	ユニット会議や全体会議の際に、職員の意見を聴取する機会を設けている。随時、職員との話し合いで意見等を聞き入れ、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、向上心ややりがいをもち働けるよう資格取得に向けた支援を行っている。個々の事情に応じて、勤務時間の調整等柔軟に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が、向上心や、やりがいをもち働けるよう資格取得に向けた支援を行っている。健康管理の為、定期的に柏木内科で健康診断を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と支部会を設立しており定期的な講習会を通じて交流や情報交換、勉強会に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴、ニーズは何かを理解する為、本人と向き合う時間を作り安心して自身の気持ちを伝えて頂けるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている物を理解した上でどんな対応が出来るか、十分に話し合う時間を取り信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の思い、状況等を把握し、改善に向けた支援の提案をしている。必要に応じ、他職種と連携しサービスに繋げている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを通じ昔の事柄等を教えて頂くことも多く、個人の持てる力を発揮できる場面を多く持てるよう工夫や、声掛けを行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行うことにより利用者を共に支えて行く協力関係が築けている。又行事等一緒に参加して頂き楽しみをシェア出来る時間を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出向くことが出来るように個々に合った柔軟な対応に配慮している。地域の方々、馴染みの方々が気軽に遊びに来て頂けるように、地域の行事に参加し積極的に関係が継続していくよう働き掛けている	日々の関わりの中や家族からの情報を基にししながら、利用者の生活習慣や馴染みの場所等を把握し、一人ひとりの想いに添える様、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士楽しく過ごせる時間を作り、コミュニケーションが取れるよう努めている。関係性が築けない場面では職員が見守り、仲介役となり関係が円滑になるように働き掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も行事等の際には案内状を出したり、お会いした際にはお声掛けしその後の様子をお聞きしたりするようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向を把握できるよう耳を傾け、声掛けや支援について話し合っている。	日頃の利用者との会話等から、本人の希望や思いを把握するよう努めている。困難な場合は、生活暦や家族からの情報等により、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーや個人情報に配慮しつつ、本人やご家族関係者に聞き取りを行い生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活援助で得た情報を共有し、個人の全体を把握し、生活リズムを理解しサポートしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の要望などを元に、現状に添ったより良い支援が出来るよう、関係機関全体の意見を聞き介護プランを作成している。	利用者の意向を踏まえ、6カ月おきに介護計画を作成している。医療的な知識を基にしながらも、利用者の気持ちを満たすケアを目指した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルで日常生活や身体の状態を細かく記録している。又職員全体で情報を共有し日々の状態を常に確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の現状に添ったサービスや支援が出来るように定期的にカンファレンスを行い情報交換をしさまざまな趣向のサービス支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から利用者の情報についてホームのお便りや連絡等で情報を図っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院は 同一敷地内にあり利用者も以前から通院しており状態の変化 健康面など心配なことはその都度 医師、看護師に相談できる	法人の医師と隣接する事業所の看護師が、臨機応変に医療の支援を行っている。家族対応で専門病院を受診する際にも紹介状の発行を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見逃すことのないよう、常時看護師が利用者の健康管理を行い、状況を把握しているので、いつでも相談でき変化時には適切な受診への支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院に対しては 家族 事業所 代表の院長が入院先の医師と治療方針 退院に向けての話し合いがとられ情報交換を行っている。退院計画を具体的に立案していく体制が取られるようになっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者には高齢の方が多く入居しており本人と家族の希望で生涯ホームで送りたいとの希望があれば事業所代表の院長と関係職員、家族と終末期ケアのあり方を共有している	医師より、家族や本人に終末期の支援について説明を行い、同意書を作成している。終末期の家族の宿泊も含め、利用者と家族双方を支えながら看取りケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急返事、事故発生マニュアルを作成し施設内に掲示して常に職員が対応について理解している。研修会には積極的に参加し対処方法について学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施しており、日勤帯、夜勤帯のそれぞれの状況に応じたケースにより行っています。又マニュアルを整備し周知徹底を図っています。	避難訓練は、事業所と近隣との協力もとり入れ回を重ねるごとに迅速に実施ができるようになっている。耐震に優れた建物で災害備蓄も行っている。	今後も地域住民の参加を呼び掛けていくとともに、災害時の避難先の確認と、火災以外の災害時のシミュレーションを行うことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報の個性や守秘義務について勉強会、職員会議で取り上げ学び意識向上を図っている。日々の関わりの中で本人の気持ちを尊重したケアに努めています。	利用者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけ、職員会議や研修等の場で共有し、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて本人が自己決定しやすいように働き掛け、声掛けを行っている。又思いを意図的に引き出すような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、体調に配慮し出来るだけ個々の生活歴に添った日常の支援をしている。本人の希望をうかがったり、相談しながら過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を中心に一緒に考えその人らしさを保てるように支援し、出張美容を利用し自身の言葉で希望を伝えられるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を提供し、季節感を味わって頂き料理の下ごしらえや後片付け、配膳を職員と利用者が一緒に行っている。又個々に合った状態での配膳をしている	ご近所からの差し入れや旬の食材をとり入れた献立を提供している。見た目で食欲が出るよう工夫し、キザミ食の利用者にも目で楽しんでもらってから提供するなどの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談しながら、栄養バランスや食事の形態に留意している。記録表の活用で水分摂取を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、必要時には協力医療機関の往診への支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している利用者も、出来る限りトイレを使用出来るように排泄動作の機能訓練を行っている。水分、排泄表の活用から排泄パターンを把握しトイレ誘導の声掛けを行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握している。サインを見逃さないよう日頃から意識し、声かけに工夫することで出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排泄状況を把握しており、水分量の確保、日常的に軽い運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を設定しているが、その日の体調や気分を尊重し個々のペースで希望に添うように行っている。本人の意向を確認しながら無理強いをしないようにしている	週2回以上を目標に、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを配慮しつつ適度な運動や休息を促している。過度な昼寝にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握し薬剤シートを用意している。医療機関と連携し症状の変化を速やかに報告し対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や日常の様子から出来る能力を発揮出来る場の検討を行い、役割分担に配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な利用者も介護タクシーを利用することで外出できるよう支援している。又家族にも事前に行事予定を伝え共に参加出来るように支援している	利用者の重度化により、歩行が困難になったり車いす利用者が増えてきているが、家族参加の行事や介護タクシーの活用も進め、外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的買い物へ出かける機会を設けてご家族の了承を得て買い物をさせていただきお支払いを自分で出来るようにIADLへの支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している ゆっくり会話が出来るよう空間に配慮し、子機を使っていたい		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように季節の花を飾ったり 四季折々の行事のポスターを展示している。窓から眺める景色だけでなく、天気の良い日は外でくつろげるようにベンチ、テーブルを置いてお茶を楽しめるようにしている	利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで、自宅のような居心地のよい環境を作り出している。リビングの飾りは、入居者の作品や、季節感に配慮されたものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きな窓のあるホールにダイニングテーブルとソファなどくつろげる空間を作っている。気楽におしゃべりできるようになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物を設置したり、本人の意見を聞きながら居心地がいい空間作りに配慮している	居室には洗面台とクローゼットが備え付けになっており、利用者の持ち物がすっきりと収納されている。個別の趣味活動やお化粧を楽しんだりプライベート空間を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてに手すりを設置し車椅子の方も自由に移動できるようにホーム内は前面バリアフリーとなっている。日常動作維持が継続できるように支援している		